

## 種と共に歩む百姓を目指して

### 【最高に幸せな我が家の食卓】

「これに入っているのはなんですか？」

「うーん、卵とアロイトマトと、万願寺唐辛子と、白丸ナス！」

「おいしい、もう一つ入っています。」

「あっ、玉ねぎ！」

「正解！奥州玉ねぎでしたー。」

我が家の食卓では、こんなクイズが出されます。6歳になる長女は品種名まで当てるという驚きの正解率です。2歳の長男はとにかくよく食べます。今年は相模半白きゅうりがお気に入りだったみたいで、浅漬けしたものを一人で2本くらいペロリです。今年3月に生まれた次女がどうなるか、これまた楽しみです。ちなみに、食卓に上る食材は肉・魚・乳製品・調味料以外ほとんど自分で育てたものです。

また、畑に連れて行った時にもクイズを出します。

「これは、何の野菜でしょうか？」

「この花は何の花でしょうか？」

私はなるべく多くの野菜を自家採種して、その種を翌年に蒔いて野菜を育てているので、畑にはトマト、茄子、きゅうりなどよく目にするような花や、大根、カブ、ゴボウ、人参などほとんど見ることのない花も四季を通して咲いています。人参の花は繊細なレースのような白い可憐な花で、バニラのようなとても甘く良い香りがして、うっとりします。そんな風景を子供たちと一緒に見て感じて、自分で育てたものを大切に食べるのがとても幸せです。

### 【新規就農】

私は5年前まで海外建設コンサルタント業界のサラリーマンでした。海外出張が多く、家族と過ごす時間がほとんど確保できませんでした。まだまだ技術者として未熟であり、会社に迷惑を掛けるのでかなり悩みましたが、子供が生まれ成長を近くで見たいと転職を決意しました。幼少の頃から自給自足に憧れていたこともあり農業をしたいと思いました。当初、妻は転職には賛成でしたが、なぜ収入を確保できるのかもわからない農業をするのか反対していました。でも、就農計画を立て、お金の管理も責任を持ってするという約束をすると、私の本気が通じ賛成してくれました。もともと、妻は学校栄養士として食育に力をいれており、食にはとても関心があったというのも許してくれた一因かもしれません。

そして、約1年の有機農家での研修期間を経て自立する際、故郷の近くが良いと考えていたら、縁あって実家もある福岡市西区に就農することができました。現在は、新規就農4年目で畑5反、採卵養鶏100羽の規模で有機農業を行っています。近隣の配達や遠方への宅配便で野菜と卵の販売をしています。

### 【どんな農業をしたいか】

有機農家で研修をしていた時、種を蒔いていたら種の色がピンクや青でコーティングされているので、「なんじゃこりゃ？」と思いました。そして、ふと種の入っている袋を眺めていると、原産地デンマーク、アメリカなどと書いてあり、「日本の野菜なのになぜ海外で種が採られているのか？」とまたまた疑問が湧きました。それで、種のことを色々と調べてみると、現在流通している野菜は違う品種の親を掛け合わせた交配種（F1）で、ほとんどの農家の人が種や苗を購入して栽培しているとのこと。そういわれると、私が研修した農家も種は購入していました。しかし、昔は地域々々で独自の野菜があって、自家採種をしながら栽培していて、それらは在来種と呼ばれていることを知りました。また、在来種を含む固定種であれば、種を採って翌年栽培するとほとんど変わらない容姿・味の野菜が育つし、自分好みの味や形で選抜していけば、畑に馴染みながらそのように変化していくということも知りました。その時に「自分の畑でできる最高の野菜を育てるために固定種野菜を自家採種する」ことを自分の農業のテーマにしようと思いました。

### 【運命の出会い】

就農最初の年、固定種だけを扱っている野口種苗さんから種を購入しました。そうやって、固定種を栽培しながら、試行錯誤で農業に取り組んでいるとき、「九州・山口有機農業の祭典」に参加しました。その祭典の分科会「種の未来」で、長崎県の岩崎政利さんが、自分の畑で自家採種した色も形も様々な10種類の大根、8種類のカブ、そして30年以上自家採種を続けた人参等を前に、それぞれの野菜に対する想いを話してくださいました。心が動かされるとはこのことで、おもわず涙がこぼれていました。野菜は輝いて見え、多様性にあふれていました。翌日の圃場見学で岩崎さんの畑を訪れたらびっくり、畑から気が溢れ出して、圧倒されて足の震えが止まりませんでした。長年の自家採種で土と種が一体となっているようで、大根やカブが我先にとモリモリに育っていました。その生命力には圧巻でした。この岩崎さんとの出会いで、自分が目指そうとしている農業は間違っていないと確信し、目指す農業の形がはっきり見えました。

### 【多様性をつなぎたい】

岩崎さんが自家採種している在来種の大根は、赤、白、紫で、短いものから細長いもの、丸いものまで色々ありました。また、同じ種類の大根でもスーパーで売られているように同じ形のものというわけではなく、バラつきがありました。これぞ、「多様性」です。前職で「生物多様性」という言葉を耳にしていましたが、意味を理解していませんでした。でも、一堂に会した10種の大根を見て初めて「多様性」ということがどういうことか、腑に落ちました。

今、日本はどの地方に行っても、同じようなショッピングモールがあり、チェーン店があり、地域の独自性を感じるものがほとんどありません。食についても同じです。

地域の伝統料理が何か考えてもぱっと思い浮かぶものはほとんどなく、ましてや伝統野菜（在来種の野菜）なんて知っている人はほとんどいません。スーパーでも全国同じような野菜が並んでいると思います。この失いかけている多様性を少しでも維持できるように伝統野菜を栽培して、広めて行きたいと考えるようになりました。私は福岡で農業をしているので、なるべく福岡県の伝統野菜を栽培したいと考えています。現在、約60種を自家採種しており、そのうち福岡県の伝統野菜は種苗会社で販売していた小田部大根やおたふく春菊、かつを菜、そして縁あって種を分けて頂いた在来野菜の芥屋カブ、三毛門南瓜です。

### 【自家採種をしてみて思うこと】

大切な種を分けてもらった中でも芥屋カブには、特に想い入れがあります。福岡県糸島市芥屋地区で270年以上前から代々栽培されてきた、赤紫色が鮮やかな勾玉型の珍しいカブです。芥屋が家と同じ糸島半島ということもあり是非育ててみたいと思い、栽培している人を探していたところ祖母の家の近くに住んでいたことがあり、祖母のことも知っている方と出会いました。先祖が引き合わせてくれたような気がしています。

このカブも2年（2回）種を採りました。今年の秋、3回目の種まきです。1年目より2年目の方が良く育ったので、3年目の今年、発芽してくれるか、どのように育ってくれるか、心配でもあり楽しみでもあります。自家採種したら、次の年種をまいて、発芽するかとても心配です。そして、発芽してくれたらもうそれはとんでもなく嬉しいです。購入した種だと発芽にこれほど感動はしないと思います。自家採種をすると、種を蒔いて成長の手助けをして、途中美味しく食べて、母本を選んで花を咲かせて種を稔らせてくれるまで野菜の一生を通して付き合うことになります。まるで子育てみたいだなと良く感じます。だから、自家採種した野菜は栽培中も愛着が違います。まだ4年目なので、「種が畑に馴染んで自分の野菜ができた！」という手ごたえはありませんが、相模半白キュウリやアロイトマトなど、今年の夏は今までになく成育が良かったものもあり、毎年少しずつ適応している気がします。一方で、去年採種した4種類のナスのうち、3種類が今年ほとんど発芽してくれなかった等、失敗もあります。いつかは、我が家で栽培している野菜を全て自家採種したいと思っています。

### 【種と共に歩む百姓を目指して】

農業を始めて4年目、文字通りゼロからのスタートなので、低空飛行ながら上昇し続けています。会社員時代と大きく違うのは、全てを自分で決めるということです。毎年、年末年始に作付計画と作業計画を立てています。天候によって作業が思い通りにいかなかったり、植えつけても売り物レベルに育たなかったりと、なかなか計画通りにはいきませんが、前年の経験を踏まえて、来年はああしようこうしようと考えて実践してみることはとても楽しいことです。

また、当たり前ですが、農作物を育てるだけでなく販売しないといけません。思い

返せば1年目は野菜ができるかどうか不安で、できたら今度はそれをどうやって売ろうか必死でしたが、いつも良いタイミングでお客様が現れてくれます。鶏が卵を産み出した時も、日に日に産卵数が増えてどうしようと焦っていたら、卵をまとめて定期的に購入してくれる方が現れて助けてくれました。良いお客様に恵まれ、本当に支えられていると感じています。収穫しているときにその日お届けするお客様の顔を思い浮かべながら収穫できるのは生産者冥利に尽きます。「この野菜、去年も頂いたあの野菜？これ美味しいよね。」と言われた時はとても嬉しいです。

家族にも変化がありました。あっという間に子供も3人に増え、長女は小学生になりました。就農当初、妻はパートで現金収入を得てくれていましたが、長男の妊娠でパートを辞めてからは、全面的に農業を手伝ってくれています。3人目の妊娠時は、出産ギリギリまで出荷作業や配達、経理をしてくれていたので、近所の農家の人に「もうゆっくりさせてあげんといかんよ。」と心配されていました。苗作りや加工品作りも手際がよく、経理から配達までこなし、妻もすっかり農家の嫁になりました。夫婦で一緒の目標を持って働くことができ、子供にも働く姿を見せられるので農業をして本当によかったと思います。

なかなか農家跡の一軒家が見つからず未だにアパート暮らしだったり、経営的に不安な面があったりと心配事がつきませんが、いつか自家採種した野菜が「池松自然農園の野菜！！」と主張してくれるようになって、その種を次世代の子供たちにつなげていけるように、頑張りたいです。